

公表

## 令和7年度 事業所における自己評価結果

事業所名		児童支援事業所ぶらみんぼーと（児童発達支援）※重症心身障害含む				公表日	令和8年3月16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内でのフィードバックにて、利用者が重なることはあるが、廊下に設置してあるソファなどを利用し、室内での密を避けている。</li> <li>・パーティション等を使用して活動スペースを仕切って適切な療育空間を作っている。</li> <li>・職員同士で相談し効率良く稼働させている。</li> <li>・集団療育の場合人数によって使用する部屋を変えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が子どもの様子を観察する際に狭すぎたり、廊下から見なければならぬなど不便さがあるため改善が必要。</li> <li>・支援人数に対して部屋の大きさや数が合っていない。</li> <li>・パーティションなど部屋を適正な広さにすること。</li> <li>・個別指導に使える部屋がもう少しあるとよい。</li> <li>・保護者対応ができる部屋が少ない。</li> <li>・使える部屋が増えるとよい。</li> <li>・一部屋は狭いように感じる。</li> </ul>		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	19	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて支援者を増員するなど、丁寧に支援できるようにしている。</li> <li>・職員間で人数調整したり、ヘルプを出したりと必要に応じて行き来出来ている。</li> <li>・より手厚い支援が必要であれば職員数と定員の割合を調整している。</li> <li>・職種間で相談し合うことを徹底している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員の補充</li> <li>・フリーで動ける職員がいるといい。</li> <li>・子どもの状態像に見合った人数配置でない時がある。</li> <li>・経験のある職員の配置が必要。</li> </ul>		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	22	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの特性に合わせて環境設定を変更している。</li> <li>・写真の提示を行い、視覚的にわかりやすいよう工夫している。</li> <li>・環境設定でより子どもたちが過ごしやすいようにしている</li> <li>・仕切りなどを使って空間を分けるなどの工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カームダウンエリアなど、場合によっては落ち着ける場所の確保が出来るとよい。</li> </ul>		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	25	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就学児と就学児のトイレスペースも分けられており、衛生上も環境が整っている。</li> <li>・雨の日に玄関にタオルを用意している。</li> <li>・毎日環境美化に取り組んでいる。</li> <li>・清潔を心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで清掃が難しい箇所がある。</li> <li>・児発と放デイで時間帯によって部屋を使い分けている。放デイでは食事等が提供される為、アレルギー管理など徹底したい。</li> <li>・部屋の設定と掃除のタイミングが一緒なので、どうしても掃除できない箇所が出ていると思う。</li> </ul>		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて大人の判断で、個室やパーティションで区切ったスペースを用意することがある。</li> <li>・グループ療育であっても、個々の様子に応じて職員が動いている。</li> <li>・個別の部屋は刺激が制限されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものコンディションによって空間を分けて過ごせるように工夫をしてあげたいが、現実問題で使用できる部屋が少ない。</li> <li>・グループ療育で個別に使える部屋などはない。</li> </ul>		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	25	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人一人の意識改善のためにも、定期的に声掛けを行ったり、全体周知を行っている。</li> <li>・しっかり意見が言える環境で参加しやすくなっている。</li> <li>・ミーティングを設けてグループ全体で確認できるようにしている。</li> <li>・チームで情報を共有しながら、一貫した支援をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの行動観察の記録が断片的になりやすいため、支援につながる記録方法を工夫する。</li> </ul>		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	30	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼やミーティングで改善点の共有が出来ている。</li> <li>・アンケートで具体的なご意見を聴取している。</li> <li>・毎回の保護者のフィードバックを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者へのフィードバックの内容によっては、専門職からの意見を聞ける場があるとよい。</li> </ul>		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	26	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のミーティングや、個々の面談で様々な意見を取り入れている。</li> <li>・意見を求める環境や機会は設定されている。</li> <li>・定期的に面談が行われている。</li> </ul>			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	28	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果の内容は事業所内で共有している。</li> </ul>			

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	30	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーバイズを受け、ケースについて考える場を設けていることはとても勉強になる。また、動画研修等を行い知識を広げる機会があるのはとても良いと思う。</li> <li>・療育時間に重ならない時間帯で事業所内研修が多数開催されている。</li> <li>・開催される研修が多く、内容も業務に反映しやすい内容だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ研修で得た知識をケースに汎化できるような研修または勉強会ができると療育の向上に繋げることができると思われる。</li> </ul>
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	31	0		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	31	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの様子について職員間で丁寧に話し合っている、保護者のニーズをしっかりと聞き取り確認している。</li> <li>・全体での見直しや話し合いがしっかり行われている。</li> </ul>	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で子供の意思決定支援について学ぶ機会がある。</li> <li>・全体で共有しながら作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの時間はもう少しあると良い。</li> </ul>
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で支援計画を共有するとともに、毎回のミーティングで支援のポイントなどを確認している。</li> </ul>	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	25	6		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	31	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人支援はスモールステップでより達成しやすい目標設定をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移行支援に関しては、もう少し丁寧に支援したい。</li> </ul>
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	27	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動ごとにミーティングも行き、日々内容を精査している。</li> <li>・日常的にミーティングで話し合っている。</li> </ul>	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの様子に合わせてステップアップしたり、さまざまな活動を取り入れたりしている。</li> </ul>	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ全体への支援と個々のお子さんへの支援を、お子さんの課題をもとに職員全体で考えている。</li> </ul>	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードを使用して全員に伝わりやすいようにしている。</li> <li>・集団療育は頻繁に打ち合わせができる環境にある。</li> </ul>	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	30	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員でその日の様子を共有し、自分が支援していないお子さんの状況や次回の支援について把握しておくようにしている。</li> <li>・集団療育は頻繁にその機会がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が足りないことがある。</li> </ul>
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	30	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録を取る時間が確保されているためすぐ書くことができる。</li> <li>・数人の職員で記入し、漏れがないようにしている。</li> <li>・記録用紙を統一し、枠組みを設けている。</li> </ul>	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	30	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導内容を追加、変更を検討するための評価機能が備わっている。</li> </ul>	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	28	3			
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具の製作は直接専門機関とやりとりしている。</li> </ul>		
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が安心して併用や移行ができるように、子どもの様子や課題、成長したところをしっかりと伝えている。</li> <li>・必要に応じて園の先生と電話で情報共有したり、園の先生に療育場面を見学しに来てもらっている。</li> </ul>		

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	29	2	・就学支援シートを活用して、お子さんへの支援内容を学校へ情報提供している。	
	28	(28~30は、センターのみ回答)	25	6	・地域の事業所連絡会に参加し意見交換を行っている。 ・他事業所の見学に行くなどして情報交換している。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	27	4	・スーパーバイザーによる研修や助言をいただく機会がある。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	19	12	・参加後、内容を事業所内で共有している。	
	31	(31は、事業所のみ回答)	19	12		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	21	10		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	31	0	・グループ後に毎回フィードバックを行い共通理解の場としている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	24	7			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	31	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	30	1	・面談を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	31	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	30	1	・保護者からの要望や、こちらが必要と判断した場合には、フィードバックの時間を長く取るなどして助言、支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16	15	・ぷらみんぼーとを利用されていた、先輩お父さんお母さんの話を聞く機会を提供している。	・今後、より多くの機会を提供できると良い。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	31	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	18	13		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	31	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	30	1	・支援が必要な保護者には、外部サポートを受け入れている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25	6	・センター全体でフェスタなど地域に向けた行事を行っている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	29	2	・訓練を実施し、職員全体で確認している。 ・定期的に訓練を実施している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	30	1	・研修を行いながら理解を深めている。	

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	30	1	・適宜、看護師と情報を共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	24	7	・食事提供がなく、医師の指示書などいただく機会はない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	29	2	・毎日、遊具や玩具など安全点検を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	29	2	・所内に掲示している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	29	2	・朝礼で報告することで全体に周知し、再発防止への意識を高めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	31	0		・事例を用いたワークなどもできると良い
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	28	3		